

# あたらしくはいった本 (平成30年3月 貸出開始資料から)

- 小説 雲上雲下(朝井まかて/著) 祝葬(久坂部羊/著) 赤猫(柴田哲孝/著) デイレイ・エフェクト(宮内悠介/著) 謎々将棋・囲碁(新井素子ほか/著) 小説禁止令に賛同する(いとうせいこう/著) 路上のX(桐野夏生/著) 光点(山岡ミヤ/著) 花ひいらぎの街角(吉永南央/著) 刑事の怒り(薬丸岳/著) ヒトごろし(京極夏彦/著)
- 随筆・詩などの文学 坂を見あげて(堀江敏幸/著) 特急二十世紀の夜と、いくつかの小さなブレークスルー(カズオ・イシグロ/著) 聴くと聞こえる(谷川俊太郎/著) にっぽんの履歴書(門井慶喜/著) 俳句、やめられません(岸本葉子/著) 文豪の朗読(朝日新聞社/編)
- その他の本 人生100年の習慣(NHKスペシャル取材班/著) 鯉のぼり図鑑(林直輝/文) 羽生結弦が生まれるまで(宇都宮直子/著) 英国王立園芸協会とたのしむ植物のふしぎ(ガイ・バーター/著) 子どもの人権をまもるために(木村草太/編) 美しき小さな雑草の花図鑑(大作晃一/写真) お隣りのイスラーム(森まゆみ/著)



## みんなの としょかん



市民図書館  
TEL (921) 4646  
FAX (921) 4896  
<http://www.library.dazaifu.fukuoka.jp/>

## としょかんカレンダー

平成30年	日	月	火	水	木	金	土
5			①	2	3	4	5
	6	⑦	8	9	10	11	12
	13	⑭	15	16	17	18	19
	20	⑲	22	23	24	25	26
	27	⑳	29	⑳	31		

○のついた日は休館日  
金・土曜日(祝日を除く)は午後7時まで開館しています。



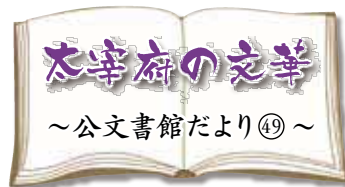
## 明治維新150年特集

### 太宰府への五卿遷座

中央の政変により都落ちして長州藩に滞在していた五卿は、幕府による長州征討の危機と長州藩内の内部抗争状況のもと、福岡勤王党月形洗蔵らの活躍もあり、福岡藩に移ることにになりました。元治2(1865)年正月14日に長州を出発し、筑前赤間宿に約1カ月滞在ののち、2月13日から2年10カ月、延寿王院(太宰府天満宮別当大鳥居家、現西高辻家)に滞在します。

8ツ時(午後2時ごろ)に太宰府に入った五卿は、浮殿前で輿を降り、延寿王院前院主大鳥居信全と現院主信徹とが門前まで出迎えます。信全・信徹が五卿にご機嫌伺いを行い、つづいて一山惣代として社家の執行坊・上座坊がご機嫌伺いをしました。翌日には五卿がそろって神前に参拝した後、社内を案内され、宝物を見物します。これらの手順は事前に福岡藩の寺社奉行にお伺いをして決められました。その際、ご機嫌伺いとともに五卿およびその従者らに「梅ヶ枝焼」を呈呈したい旨、延寿王院から申し出ています。

また、五卿を迎えるにあたって、8



～公文書館だより④～

項目にもおよぶ注意事項が「御用日記」(延寿王院の公的記録)に記されています。これによると、火の用心を心掛け夜回りを厳重にせよ、社辺は茶屋年番が、町々は町役組頭が日々見廻り、気を付けて掃除するようになど、まちの管理一般に関わる事項のほか、五卿の遊覧に出会えばそれがお忍びであつても下座せよ、府中の子どもは社辺で遊ばないように入らないように、裏山には子どもであつても上らないようになど、五卿に不敬がないよう、子どもの行動に至るまで規制する細やかな取り決めがなされていました。

ほかに、他藩のお尋ね者や問者(スパイ)などが太宰府に入り込むだろうから、たとえ一泊であってもその姓名を聞き糺して身元を申し出るよう、延寿王院から社中へ達しを出した記事が「御用日記」に残っています。五卿の受け入れに当たっては、地元にもひとかたならぬ苦労があつたようです。

太宰府市公文書館 朱雀 信城